

せり ぎわ こう じ ろう
芹 沢 光 治 良

ノート (3)

作品『孤絶^{こぜつ}』を読んでもみませんか？



1942年頃



スイスの登山鉄道

芹沢光治良 (1896-1993)

作家 (エクリバン)。静岡県沼津市生まれ。人間主義的な作風で知られる。

2023 年

名作『^{パリ}巴里に死す』の著者 —————

^{せりざわこうじろう}芹沢光治良は1896年5月4日に静岡県沼津

市の漁村^{がにゅうどう}我入道に生まれ、^{はたち}二十歳で高等学校

(旧制)へ進学するまで住みました。

大学卒業後は、官吏を務めたあと、光治良は

28歳で22歳の藍川金江と結婚してフランスに

留学しました。



パリ・ボアロー街の家で(1927年)

留学中に肺結核にかかりますが、一命をとりとめて、療養するなかで生き方を見つめなおし、やがて作家になる決心をします。



高原療養所で (1928 年)



沼津市我入道にある
芹沢光治良文学碑
「孤絶の碑」

ふるさとや
孤絶のわれを
いだきあぐ
八十五翁
光治良

芹沢光治良の作品について

大河小説 「人間の運命」

長編小説 「巴里に死す」「サムライの末裔^{まつえい}」

「孤絶」「神の微笑^{ほほえみ}」「天の調べ」

など

短編小説 「ブルジョア」「死者との対話」

「落葉の声」など

日記 「芹沢光治良戦中戦後日記」

エッセイ、少女小説など幅広い読者を対象とした

作品が約 700 点あります。

芹沢光治良がひきうけた役職は ——

日本ペンクラブ会長、日本文芸家協会理事、日本ユネスコ国内委員、日本芸術院会員、ノーベル文学賞推薦委員などです。

日本では勲三等瑞宝章、日本芸術院賞、沼津市名誉市民に、フランスでは友好国際大賞、コマンドール章に選ばれました。



コマンドール章の授章式 (1974 年)

長編小説『孤絶』は _____

太平洋戦争中の1941年から1942年にかけて、『巴里に死す』（1943年刊）と同時期に書かれ、1943年に刊行されました。電子版でも入手可能な作品です。主人公「私」は、作家になろうとしてついになれなかった人物と設定されており、作者自身と異なるフィクションであることを示す場面から始まります。



自宅玄関にて（1939年）

物語の時代は

1924年から1928年頃。「私」は経済学を
学びに新妻とともにフランスへ留学します。

やがて子供を授かりますが、肺結核にかかり
自分の人生を見つめなおしていきます。



『孤絶』の主な舞台 (★は主人公が訪れた主な場所)

芹沢作品の魅力のひとは、
“普遍性”です。

🍀 読者からのメッセージ・・・・・・・・

『孤絶』を読んで



『孤絶』(創元社 1943年)



『孤絶』(小学館 2021年)

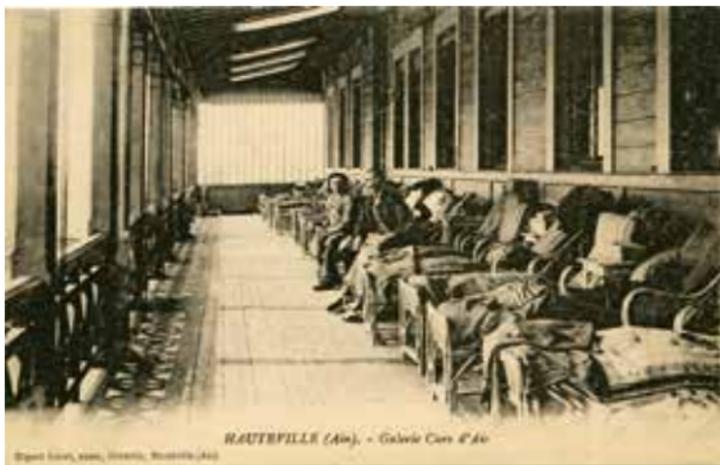
☘ (読者 K) 音楽、美術、演劇—自分を文化の街に開放して、人生の可能性を試みよう^{ねが}と希う「私」。同宿の評論家ベレソール氏（実在の人物。芹沢光治良と交際）らとは、毎晩、夕食時に文学サロンのような豊かな会話を体験。ソルボンヌ大学ではシミアン博士（芹沢光治良の指導教授）のもと、デュルケーム学派の経済社会学を学びます。難解な勉強をする「私」をフランス人も尊敬します。フランスの文化と学問を一心に身につけ、自分を再建しようとする強い意志が印象的です。



現在のパリ大学（ソルボンヌ）

🍀 (読者 M) 〈命のある間、生命を歓喜にもや
すような仕事をしたい〉

闘病するなかで、「私」は重大な決心をします。
もし自分に残された時間が少ないと分かったら
どう過ごすのだろうか。精一杯生きることの意味
を考えさせられます。



留学中の絵葉書
〈オートヴィルでの結核療養の様子〉

🍀 (読者 A) 〈いつはてるか知れない命のある
間、生命を歓喜にもやすような〉、〈魂をぶちつ
け〉て喜べる仕事を残せば、〈(わが) 子供はそ
のなかに父の希望や精神をもとめられるだろう
……〉

次の世代に自分の魂を残そうという希望が、生
きがいになると知らされます。



留学中の絵葉書
〈ホテル・レジナ〉
×は芹沢光治良が療養した部屋

🍀 (読者 F) 妻と理解しあうことの難しさに直面した「私」は、〈人間の心は小宇宙のように複雑〉だが、互いを〈一つの小宇宙として認め合う〉ことこそ愛する一歩なのだと、あらためて思います。人が生きるには、まず、互いを赦し尊重することが大切なのだと、心に響きます。



冬の夜空に輝くオリオン大星雲 (M42)

🍀 (読者 I) 高地療養中の「私」は、夕陽に映えるモン・ブランを〈特に美しいと〉思わなかったが、ある日この山に登り、静寂な氷河の眺めに〈魂を揺り動か〉されます。病軀を労ってただ仰臥していることは死んでいるのに等しいと悟り、不思議な力が湧いてきます。自然の偉大さが印象に残る場面です。



夕映えのモン・ブラン

図書館にある本

から触れてみて下さい。

作品の登場人物は、読者とともに喜んだり、怒ったり、悲しんだり、楽しんだりします。

だれにも分かる誠実な文章です。



沼津市芹沢光治良記念館
静岡県沼津市我入道曼陀ヶ原 517-1
電話 055-932-0255



中野区立中野東図書館・
芹沢光治良記念文庫
東京都中野区中央 1-41-2
電話 03-5937-3559

【入手可能な芹沢光治良の主な作品】



『巴里に死す』



『芹沢光治良戦中戦後日記』



少女小説集『緑の校庭』



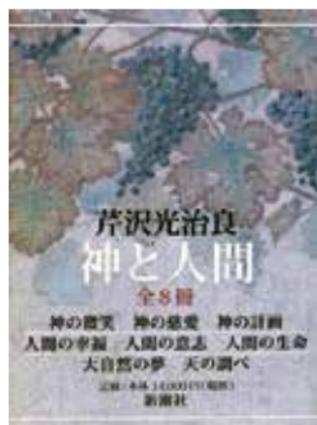
『孤絶』



『サムライの末裔』



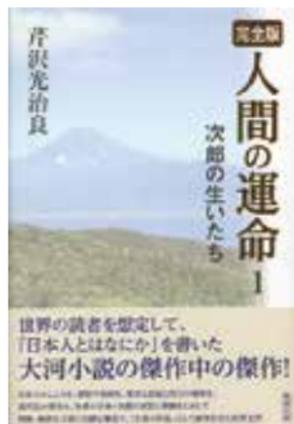
『芹沢光治良文学館』
全12巻



愛蔵版〈神と人間〉
全8冊セット



愛蔵版『人間の運命』
全7冊セット
(新潮社版)



完全版『人間の運命』
本編16巻・別巻2巻
(勉誠出版)

【あとがき】

芹沢光治良が作家を目指すきっかけとなったフランス留学時代。今回は、その頃の体験を元に書いた『孤絶』を紹介しました。この作品に皆さんはどのような印象をもたれたでしょうか。作品とのすてきな出会いがあることを願っています。まだまだ、ご紹介したい作品がたくさんあります。次のノートもお楽しみに。芹沢光治良と、その作品について、どのようなことでもお問い合わせください。

芹沢光治良ノート（3）

2023年5月4日 発行

監 修：勝呂奏（桜美林大学教授）

編 集：池田三省 劔持直樹 清水美穂 野見山恵美子 不破久温

協力・写真提供：沼津市芹沢光治良記念館

発 行：一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団

〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-3

メール serizawa.52@nifty.com

ホームページ (URL) <https://serizawa-kojiro.com>

『芹沢光治良ノート』は財団ホームページ
に掲載されています。



印 刷：有限会社マエダ印刷

文学は

もの言わぬ

神の意思に

言葉なき

をなすことだ

光治良